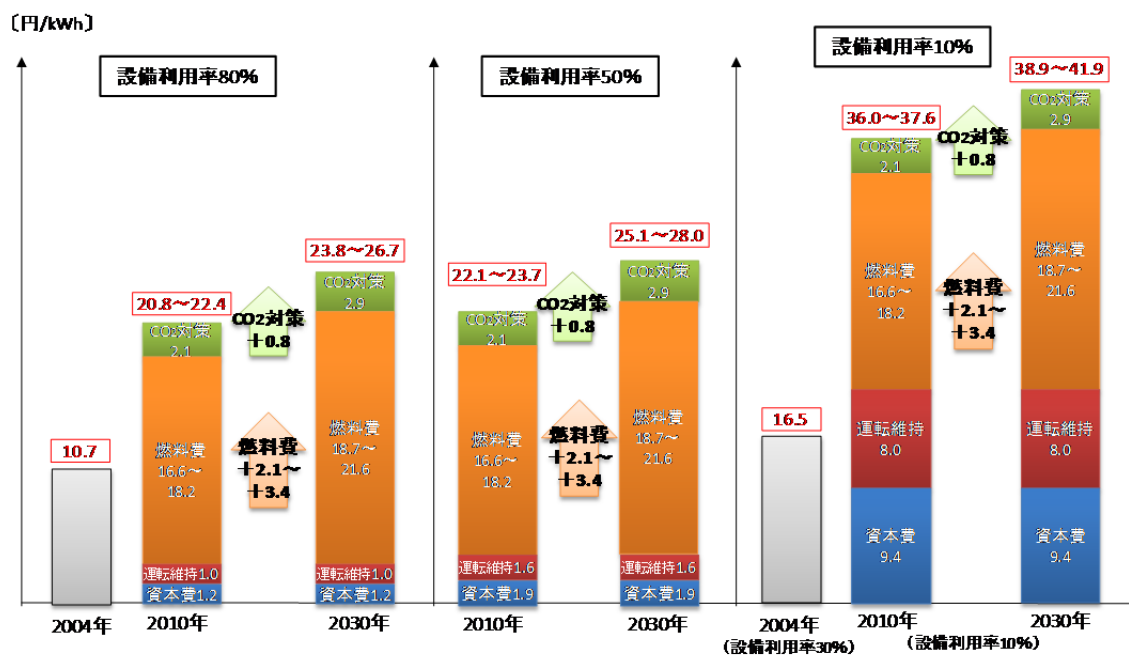


(3) 石油火力

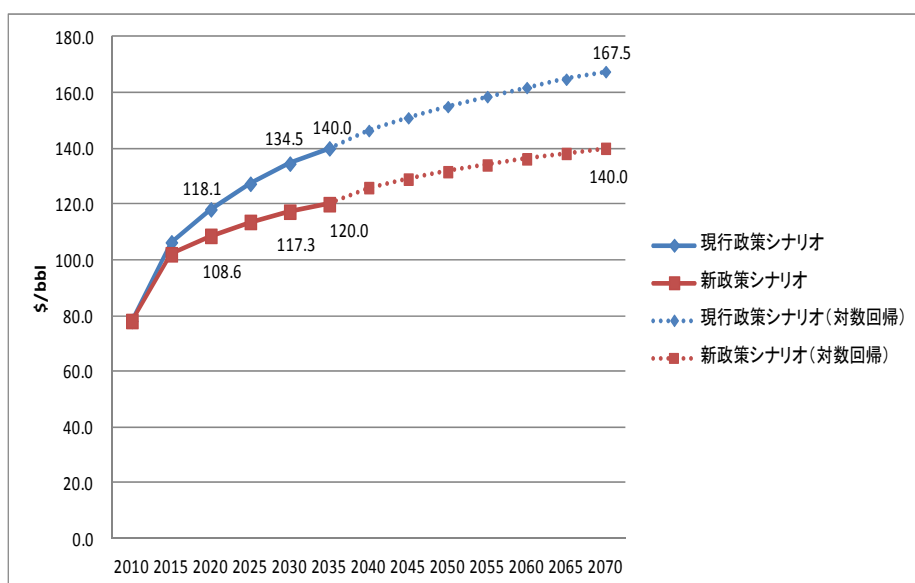
○石油火力については、CO₂対策費用に加え、燃料費の上昇によって、04年試算と比較して、設備利用率10%とすると、2010年モデルプラントで、+約19円の36.0～37.6円/kWh、2030年モデルプラントでは、さらに、CO₂対策費用と燃料費上昇で、38.9～41.9円/kWhとなった。設備利用率50%とすると、2010年モデルプラントで、22.1～23.7円/kWh、2030年モデルプラントでは、さらに、CO₂対策費用と燃料費上昇で、25.1～28.0円/kWh。(割引率3%、稼働年数40年。ただし、04年試算では設備利用率30%)。



(図 1) 石油火力の発電コスト (04年試算・2010年・2030年)

(表 1) WE02011における原油価格見通し (\$/bbl)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
現行政策シナリオ	78.1	106.3	118.1	127.3	134.5	140.0
新政策シナリオ	78.1	102.0	108.6	113.6	117.3	120.0



※発電コスト試算に際しては、初年度価格を 2010 年度平均 CIF 価格（\$84.16/bbl）とし、次年度以降について上記の WE02011 を基にした試算値の価格トレンドを適用。

（図 2）WE02011 を基にした原油価格の試算値(\$/bbl)